

## 教職入門

(1 単位)

専門 &gt; 教育学部 &gt; 基礎理解に関する科目等

1 年、2 年、3 年、4 年 通年(前→後)

週間授業

遠藤 貴広 (endo@u-fukui.ac.jp, 0776-27-8964 (2518)、総合研究棟 V (教育系 1 号館) 6 階)

### ■ナンバリングコード

05-TFE-106 教育学部 学校教育課程 / 教育の基礎的理解 [1 年次レベル]

### ■授業概要

教育改革をめぐる提言と附属学校園の教育実践研究を手がかりに、新しい時代に求められる学びのあり方をチームとして協働で探究する。世界の教育改革、学習指導要領をめぐる議論、新しい時代の教育へのさまざまな研究を検討しつつ、自分たち自身でも求められている学びのあり方を探る。また、3 年生が教育実習を行う附属学校で進められている教育実践研究において、どのような授業・学習が展開されているか、3 年生の報告を受けて考える。異コース異学年のメンバーからなるチームで、それぞれの学年の役割を担いながら、協働探究の成果をレポートやポスター等にまとめる。

### ■到達目標

現代社会における教職の位置付けを踏まえた上で、教職の意義、教員の役割・職務内容を理解する。

### ■授業内容

第 1 回：前期オリエンテーション：チームで学ぶことの意味

(1 年次前期のオリエンテーションとして、チームで学ぶことの意味について講義を行った後、新チームで初顔合わせを行い、「意図されたカリキュラム」のみならず「実施されたカリキュラム」や「達成されたカリキュラム」「経験されたカリキュラム」についても、学年をまたいだチームで協働探究していくことを確認する)

第 2 回：チームの先輩の成果から学ぶ：前年度の個人最終報告書の検討

(これまでの学習経験を綴った前年度の個人最終報告書をチームで協働検討しながら、メンバー相互の「経験されたカリキュラム」を確かめ合い、それぞれの学習経験を相対化させるとともに、今年度のチームでの「主体的・対話的で深い学び」「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」に向けた見通しを共有する。この検討を通して、本学の教職課程で何をどのように学ぶのかを、初年次の早い段階で具体的に確認を行う)

第 3 回：公教育の課題に関わる新聞社説の検討

(公教育の改革に関わる重要資料をチームで検討しながら、学習指導要領改訂をめぐる議論を中心に、カリキュラムと教育方法の改革に関する課題・論点を探る。1 年生は新聞社説を素材に、公教育の課題が一般にどう議論されているのかを検討する)

第 4 回：附属学校園における教育実践研究の検討

(特色ある学校として附属学校園の教育実践研究に注目し、研究紀要や著作をチームで検討しながら、教育課程編成とカリキュラム・マネジメントをめぐる現代的課題を確認する。1 年生にとっては、これが実習先の教育実践を具体的に知る最初の機会となる)

第 5 回：公教育の課題に関わる図書の検討

(公教育の課題を知るための図書として、1 年生は新書や文庫を検討し、その内容についてチームで議論しながら教育実践の課題を整理する)

第 6 回：後期オリエンテーション

(教職の基礎知識として、授業を構成する要素を先輩たちと確認し、チームで進める教育実践研究に位置づけ、これから各教科で始まる授業研究の見通しを共有する)

第 7 回：教育実習の経験を聴き合う

(チームの先輩たちが教育実習で実践した授業を事例に、学習指導案

の作成を始めとする授業づくりの課題をチームで具体的に共有し、実際に授業を実践する上で必要となる基礎的な指導技術を確認した上で、授業デザインのポイントを協働で探ることで、教育実習までに 1 年生のうちから何をすべきかを確認する)

第 8 回：教職の意義及び教員の役割・職務内容に関する課題図書の検討

(夏休み中に読み込んだ教職入門に関する課題図書の内容をチームメンバーに紹介しながら、チームの協働探究を支える新たな視点を探る。これが、チームテーマに関する考察を支える新たな土台となる)

第 9 回：教職に就いた卒業生は大学で何をどのように学んできたか：前年度の教職学習個人誌の検討

(卒業生が「学びの軌跡の集大成」として残した教職学習個人誌をチームで検討しながら、先輩の長期にわたる実践研究の展開を跡づけ、自身の授業づくり・実践に向けて大学生のうちに何をどのように学んでおくべきかを再確認する)

第 10 回：教育の最新動向の検討

(チームテーマに関わる先行研究をレビューしながら、チームテーマをめぐってどのような議論が蓄積されているかを確認する)

第 11 回：チームポスターの構想

(新たな公教育の展望を、チームとしてどのようなポスターで表現するかを構想し、チーム考察の根拠となる資料を整理する)

第 12 回：チーム考察の検討

(新たな公教育の展望に向けて、チームとしてどのような考察を示すか、その考察を支える学術的根拠が揃えられているかを協働で確認しながら、関連分野の基礎理論の再確認を行う)

第 13 回：チームポスターの検討

(一旦まとめ上げられたチームポスターを改めて検討し、チーム考察の根拠として用いている当該分野の研究の知見に問題がないか、最終確認を行うとともに、ここまでチームで協働探究したからこそ見いだせるようになった研究課題やリサーチクエスチョンを明らかにする)

第 14 回：協働探究の振り返りと公開クロスセッションの準備

(チームでの協働探究の歩みを振り返り、本授業で学んだことの意味を鮮明に伝える言葉を探る中で、「学びの履歴としてのカリキュラム」「学習経験の総体としてのカリキュラム」を捉え直すことを自身の学習経験を対象に具体的に行之、そのプロセスを新たな学習評価の形として位置づけ、評価観の転換を図る)

第 15 回：協働探究の成果を広く伝える：公開クロスセッションでの発表

(中学生・高校生や現職教員も交えた「教育実践研究 公開クロスセッション」で今年度の協働探究の成果を伝え、普段の授業よりも異質性の高いメンバーからなる小グループで、教職課程で学んでいることの意味を確かめ合う)

1 年間の振り返りと今後の展望を：個人最終報告書の作成

### ■準備学習 (予習・復習) 等

個人レポートの作成と改訂。

テーマに関する文献・資料の収集・検討。

チームポスターの作成とそのための打合せ。

### ■授業形式

【授業形式】

演習

学年とコースの異なるチームで協働探究のテーマを決め、協働探究を重ねる。

そのために個人レポートを持ち寄ってチームで議論し、その議論を踏まえてレポートを改訂する。

チームでの協働探究の成果をチームポスターにまとめ、公開の場で発表する。

協働探究のプロセスを振り返る報告書を作成する。

## ■成績評価の方法

サイクルごとに提出される個人レポート、チームでの協働探究の成果をまとめたチームポスター、以上の取り組みを振り返って作成した個人報告書を基礎資料として成績評定を行う。評価規準については『福井大学教育学部 教員養成スタンダード』を参照のこと。

## ■教科書・参考書等

秋田喜代美・佐藤学 編（2024）『新しい時代の教職入門 [第3版]』有斐閣。

佐久間亜紀・佐伯胖 編（2019）『現代の教師論』ミネルヴァ書房。  
他、選択課題図書多数。協働探究の展開に即して授業中お知らせいたします。

## ■キーワード

Public Learning, Collaborative Inquiry, Generational Cycle, Authentic Assessment

## ■アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング科目

## ■授業形態

対面・オンライン併用授業ーリアルタイム・オンデマンド（資料配布）併用型

学年・コースをまたいだチームでの協働探究プロジェクトをオンラインで展開するため、Google Classroom を使用します。その一方で、学年別のアナウンスや成績評定に関わるレポートの提出は Universal Passport (UNIPA) で行います。

UNIPA と大学 Gmail 両方のメールを確認できる態勢を整えて下さい。

## ■SDGs

4.質の高い教育をみんなに